

## 2001年9月11日以降

常務取締役

八木達雄

Tatsuo Yagi  
Managing Director

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願  
い申し上げます。

21世紀の幕開きの年である昨年の最も衝撃的なシー  
ンは、9月11日の世界貿易センタービルへのテロ攻撃の画面  
だった。帰宅後、夜10時からのNHKニュースを点けたら、15  
分程前の航空機衝突による北側タワーの火災の映像が飛  
び込んできた。その3分後もう1機が現れ、スローモーション映  
画のように南側タワーに突っ込むのを見た瞬間、テロだと思  
った。1機だけなら事故の可能性もあるが、2機が狙い澄まし  
て両方のビルに激突するのはテロ以外に考えられない。

このビルの最上階には、“Windows on the world”という素  
晴らしい眺望のレストランがある。私もアメリカ在勤時には、お  
客さまをウォールストリートや自由の女神へ案内後、ここでよ  
く食事をしただけに他人事とは思えなかった。このツインタ  
ワーはニューヨークのシンボルであるのみならず、ウォールスト  
リートの真ん中に位置しアメリカの富の象徴でもあっただけ  
に、アメリカ人の受けたショックは大きかったと思う。

近代文明の発展段階を100年単位の大きな流れでとらえ  
ると、その性格と覇者はファンダメンタルな技術によって決ま  
ってきた。ワットの蒸気機関発明後の19世紀は、石炭文明の  
時代で、イギリスの時代でもあった。エジソンの白熱灯実用  
化、フォードによる大量生産システム導入以降の20世紀は、  
電力・石油文明が隆盛をきわめ、大量生産、大量消費の時  
代であり、アメリカの時代でもあった。とりわけ20世紀の最後  
の10年は、1989年のベルリンの壁崩壊後のヨーロッパの混  
迷、バブル崩壊後の日本の混乱もあってアメリカの1人勝ち  
の時代であった。今世紀に入ってもこの勢いは変わらず、多  
くの人が21世紀も引き続きアメリカの時代と見ていた。

歴史を振り返ると、1つの事件がその後の時代を大きく変  
えてしまうことがある。サラエボの一発の銃声第1次世界  
大戦を引き起こした。最近会うアメリカ人は、9月11日以降の  
アメリカはそれ以前とは全く違うアメリカになったと異口同音  
に言う。中には自分の会社の業績不振を全てテロのせい  
にする者もいて、「ウサマ・エクスキューズ」という言葉もあると  
いう。後世の歴史家は9月11日の事件をどのように評価する  
のだろうか。

この原稿が印刷される頃には、アフガニスタンでの戦争は  
多分終了しているだろうが、テロへの恐怖は依然として強く



残り、アメリカは幾つかの点で質的転換を図らざるを得なく  
なるであろう。

第1に対外的には、グローバリズム、米一国中心主義から  
国際協調重視の動きも少し出てきた。テロ根絶のためには戦  
争だけでなく、パレスチナ問題等の民族問題への歩み寄り  
や、発展途上国の貧困問題にも光を当てる必要がある。先  
般のドーハのWTO閣僚会議では、国際的な枠組み作り  
に珍しく真剣に取り組むアメリカの姿勢が評価された。

第2に国内的には、デレギュレーション、市場万能主義から  
セキュリティ確保、公的規制の整備、強化にもウェイトがおか  
れ始めてきた。あれだけ官業の肥大化を嫌うアメリカが、民間  
に委託していた空港の警備を連邦職員の業務に移行する  
ことになった。

第3に消費行動の変化がある。経済は基本的には価格で  
動くが、何か大きな事件により大多数の人が一つの気持ち  
になった時は、価格を媒介しない需給調整が一気に行われ  
ることがある。パールハーバーの日を境に、それ迄5%位の貯  
蓄率が一気に25%に跳ね上がり、第2次大戦の終了の日迄  
持続したという。昨年は年間ベースで1%と低水準だったア  
メリカの貯蓄率は9月には5%近く迄上昇した。今後この傾  
向が持続するかどうかまだ見極める必要があるが、テロへの  
脅威から個人の生活パターンが内向きになってくると、個人  
消費が2/3を占めるアメリカ経済も俯き加減になってきて、日  
本に与える打撃は大きい。

わが国は第2次大戦後、国民生活も経済も技術もアメリ  
カンモデルを一生懸命追いつけて来た。しかしながら9月11日  
の一件は、アメリカンモデルだけをフォローしていれば好い時  
代の終わりを示しているのではなかろうか。日本は2番手を  
走るとは得意だが、先頭を切ることは極めて不意手である。  
しかしこれからは、主体的に独自の日本型モデルを作っ  
ていくことが求められていると思う。

天然資源も、広大な土地も、安価な労働力もないわが国  
が、激しい国際競争に打ち勝って21世紀も生き延びてゆくに  
は技術力しかない。その中で企業が勝ち残っていくためには、  
他社がまねのできない核となる技術(コア・コンピタンス)の確  
立が必要で、研究開発に携わる皆様の役割は重要である。  
小さなテーマでも好いから、自主、自立の気概で、自らのモデ  
ルを作り、先頭を走ってくれることを期待している。